第２学年１・２組保健体育科学習指導案

日　時：平成２８年１１月２５日（金）
場　所：菊池市旭志体育館
指導者：合志市立西合志南中学校　教諭　北田　勇正

１　単元名　武道　「剣道」

２　単元について
（１）単元観
①一般的特性
剣道は、竹刀を使って基本となる技や得意技を用いて、相手と攻防を展開しながら互いに有効打突を目指して相手の構えを崩して打ったり、受けたりして勝敗を競い合う運動である。構えや体さばき、基本打突の仕方や受け方を関連づけて一連の動きとして身に付けることに配慮するなど、対人的技能と一体的に扱う必要がある。また、剣道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動でもある。そのため、技能の競い合いによる勝利の喜びを求めるだけでなく、伝統的な行動の仕方を身に付けさせる学習を行うことが大切である。
②生徒からみた特性
普段から接することが少なく、中学校で初めて学習する内容であるため、ほとんどの生徒が未経験の単元である。かっこいい、自分から打った技で一本が取れたときが楽しい、など肯定的なイメージを持っている。一方で、痛い、上手にできないという否定的なイメージも持ち合わせている。

（２）系統観

（中学１，２年生）

【武道】※ア～ウから選択
ア　柔道
イ　剣道（本校選択）
ウ　相撲

相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開することができる。

〈１年次既習項目〉
【構え】相手の動きに応じて自然体で中段の構え
【体さばき】相手の動きに応じて歩み足や送り足
【基本打突】面や胴（右）や小手（右）

〈２年次〉
【しかけ技】二段の技（小手－面、面－胴）
引き技（引き面、引き胴）
【応じ技】抜き技（面抜き胴、小手抜き面）

→

（中学３年生）

【武道】※ア～ウから選択
ア　柔道
イ　剣道（本校選択）
ウ　相撲

相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開することができる。

〈３年次〉
【構え】相手の動きの変化に応じて自然体で中段の構え
【体さばき】相手の動きの変化に応じて体の移動や竹刀操作
【基本打突】相手に対しての距離、応じ技への発展
【しかけ技】二段の技（小手－胴、面－面）
引き技（引き小手）
出ばな技（出ばな面、出ばな小手）
払い技（払い面、払い小手）
【応じ技】すり上げ技（小手すり上げ面）

（３）生徒の実態（１組男子１９名、２組男子１８名、特別支援学級１名、計３８名）
保健体育の学習に対する意欲は高く、明るく前向きに取り組むことができる。剣道に関しては、１年次に全員が授業で経験している。事前アンケートの結果では、剣道が「とても好き」が３人、「好き」が１１人、「嫌い」が６人であった。「どちらとも言えない」と答えた生徒が１７人おり、剣道に対して肯定的でもなく、否定的でもない様子が伺える。「どんな時に楽しいと思いますか？」

という質問には、「自分から打った技が打てたとき」「試合に勝ったとき」と答えた生徒が多く、技の習得や試合の場面で楽しさを感じたいということがわかる。また、「どのような力を高めたいか？」に対しては、「自分から打つ技」「礼儀作法」が多く、技能を身につけて技を決めたいという意欲的な姿勢が伺われる。

〈剣道に関するアンケート結果〉※未回答１名

Ｑ１ 剣道は好きですか？	とても好き（３人）　好き（１１人）どちらともいえない（１７人） 嫌い（６人）　とても嫌い（０人）
Ｑ２ 剣道でどんな時に楽しいと思いますか？（複数回答）	自分から打った技が打てたとき（２７人）　試合に勝ったとき（２５人） 仲間と力を合わせたり声を出し合ったりして練習ができたとき（１３人） 礼儀作法がきちんとできたとき（１２人）
Ｑ３ 剣道の授業でどのような力を高めたいですか？（複数回答）	自分から打つ技（２８人）　礼儀作法（２７人）　総合的な体力（２３人） 防御の技能（１７人） 仲間とうまくコミュニケーションを図ることができる（１４人）

（４）指導観

『楽しさと喜びを実感し、自主的に運動に取り組む生徒の育成』
～思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりを通して～

指導に関しては、菊池郡市中体研の研究テーマを受け、以下のことに留意する。

■授業づくりの視点１ 学習指導過程の工夫

①単元計画の工夫

○オリエンテーション時を中心に、剣道が「剣の理法の修練による人間形成の道」であることを伝え、我が国固有の文化と伝統的な考え方があることをおさえる。

○学習の見通しを持たせるために単元計画を配布し、「容易→難しい」、「遅い動き→速い動き」、「その場で行う→移動しながら行う」、「基本→応用」といった原則を具体化させる。

○必要以上の反復をなくし、効率化を図るとともに飽きさせない工夫を行う。段階に応じた実践的な学習（ゲーム的活動、基本試合、簡単な試合等）を取り入れ、初めて剣道に触れる生徒であっても、「できる」「わかる」楽しさを味わうことができるようにしたい。

②スキルウォーミングアップの推進

○武道の特性や文化に触れることを通して、礼法、マナーなどが身に付くだけでなく、対人的な動きを中心とした全身運動であり、瞬発力、敏捷性、巧緻性など体力を総合的に高めることができることをおさえる。

○健康･安全に気を配って剣道を学ぼうとする態度を評価規準に盛り込み、積極的に評価していく。

○基本技能が身につくようなスキルウォーミングアップメニューを作り、強度、時間を変えながら、より効果的な技能定着をめざす。

■授業づくりの視点２ 言語活動の充実

①協働的な学習の推進

○課題提示については、生徒の実態に応じて、わかりやすい言葉で提示する。教え合い活動の室を高めるために、つまずくポイントなどの視点を明確に伝え、生徒同士が支援を行えるよ

うに配慮する。

○技術に関してはポイントとキーワードをそれぞれ提示する。

○グループの編成においては、剣道に好意を持っている生徒と、苦手・嫌いと思っている生徒で互いに教え合いができる関係で組んでいる。また、ＱＵテストの結果から要支援群の生徒や剣道が苦手、嫌いと思っている生徒同士にならないように配慮する。生徒間での教え合い学習が充実し、グループでの練習を積み重ねていく中で、互いに技術を高め合う環境を設定したい。

○スキルウォーミングアップにおいても、「学習言葉」を用いた言葉掛けができるようにはたらきかけを行う。

○自己・相互・教師による評価と多角的評価を行い、コミュニケーションを図らせていく。

○授業の中で「できた」「良かった」ところは、教師からだけでなく、生徒同士でも褒めて認めることで満足感を得られるような授業を行っていく。

②教具･資料の活用

○ＩＣＴを活用し、主に自分の動きをイメージできずに技能面において課題を見つけることが苦手な生徒に対して分かりやすく伝える。本時の課題設定と評価の判断基準を明確にすることで、生徒が見通しを持って、意欲的に取り組めるようにしていく。

３　単元の目標

（１）技ができる楽しさや喜びを味わい、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技ができるようにする。（技能）

（２）剣道の伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにする。（関心・意欲・態度）

（３）礼に代表される伝統的な考え方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（知識、思考・判断）

5　本時の学習

（1）本時のねらい

○タイミングをとらえ、「面抜き胴」を打つことができる。（技能）

【仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を身に付けている。（思考・判断）】

（2）本時の展開　（８／１３）　　※アルファベットは菊池郡市中体研紀要に基づく

過程	時間	学習活動	学習形態	○教師の支援及び評価	備　考
つかむ	10分	※始業前に垂と胴を装着してチャイムを待つ。 1　挨拶・健康観察をする 2　準備運動 スキルウォーミングアップ＋基本動作 ①スキップ ②前進・後退・左右すり足 ③跳躍素振り ④胴打ち	一斉 グループ	○安全に正しく装着できているか確認する。 ○全員で安全に留意しながら準備を素早く行わせる。 ○見学生への配慮を行う。 ○事前に学習した「基礎運動」であることを理解させる。(A) (C) ○楽しみながら基本に忠実に行わせ、基本技能を体得させる。 ○大きな発声をすることで技能向上と回数の確認を行わせる。(H)	竹刀 剣道具 音楽
探る	20分	3　本時のねらいと学習内容を確認する。 ※面を装着する。 「面抜き胴」を打てるようになろう！ 4　前時までの復習をする。「面打ち」「胴打ち」を稽古する。 5　「面抜き胴」の模範演技を見て、ポイントをつかむ。 6　「面抜き胴」を稽古する。 7　タイミングを捉えて面抜き胴を打つためにどうすればいいか発表し合う。	一斉 グループ 一斉 グループ	○本時のめあてを確認させる。 ○学習言葉を使って、全員が理解できるようにする。(E) ○素早く正確に装着させる。見学者がいれば手伝わせる。 ○懸かり手は、気迫を込めて正確に打突させ、元立ちは、「右」の足裁きを使って正確に打突させることで、「面抜き胴」につなげる。 ○模範演技をし、イメージをつかませる。(I) 【本時の学習言葉】 タイミング（相手の竹刀が上がった瞬間） 右足（大きく右側に出す） ○どのようにしたら「面抜き胴」が打てるのかを考えて稽古させる。 ○手立ての必要な生徒にはタブレットを使って技能を向上させる。(D)(G) ○教師と生徒でポイントについて共通理解を図る。 【予想される生徒の言葉】 タイミング：相手の竹刀が上がった瞬間を捉える。相手が動いた瞬間に打ち出す。 右足：大きく右側に出す。相手の竹刀が上がった瞬間に素早く動かす。	掲示① 掲示② 掲示③ 掲示④ 大型モニター タブレット 掲示⑤
確かめる	15分	8　「面抜き胴」の判定試合をする。 【ルール】 ・４人一組で行い、２人が試合、２人が審判とする。 ・面抜き胴をお互いに１回ずつ行い判定を行う。 ・判定の結果について話し合う。 ・話し合いをうけてもう一度判定試合を行う。	グループ	○班の中で判定試合をして、ポイントを理解させながら、技能を高めさせる。 【B評価】相手が面を打ってきたところを、胴を打つことができる。(技能) 【B評価に達するための手立て】 学習資料を提示して、技能のポイントを明確に伝える。(技能)	チェックカード
まとめる	5分	9　本時のまとめを行う。 ・本時の成果と課題 ・次時の説明 ・挨拶	一斉	○仲間(グループ)の良かった点や課題等を出し合い、認め合う雰囲気作りに努める。 ○本時の目標に向けての学習の成果と課題を発表させる。(F)	掲示⑥